

日本コミュニティ心理学会第10回大会企画講演

7月1日 日曜日 10時-12時

## 『現実介入しつつ、心に関わる』

演者： 田嶋誠一（九州大学大学院人間環境学研究院）

コメンテータ： 塩谷 亨（金沢工業大学）

司会： 平川忠敏（鹿児島大学）

### 講演要旨

「現場は学問のはるか先を行っている」というのが、私の実感です。現場に鍛えられているうちに私の臨床もいろいろ変化してきました。私はもともとコミュニティ心理学を専門としてきたわけでも、それを目指して研究や勉強をしてきたわけでもありません。しかし、さまざまな臨床現場で、現場のニーズを「汲み取る、引き出す、応える」ということを心がけているうちに、結果としていつのまにかコミュニティ心理学的アプローチをとることが大変多くなってきました。個人の内面や深いところを扱う臨床から出発し、それだけでなく、コミュニティ心理学的発想に至る私の臨床の工夫や変遷について、臨床経験を交えて、お話出来たらと思っています。具体的には、①内面探求的アプローチ、②ネットワーク活用型アプローチ、③システム形成型アプローチ、といったことについてお話する予定です。

現場のニーズを「汲み取る、引き出す、応える」ためには、心理臨床家が従来のようにもっぱら心の内面や深層に関わるという姿勢（それも必要ですが）のみでは不十分で、「現実介入しつつ心に関わる」という姿勢とそれに基づく多面的アプローチが重要になります。これは、心理臨床が生き残れるかどうか、換言すれば心理臨床が社会に真に貢献できるかどうかに関わる重要なことだと私は考えています。 (田嶋誠一)